

千田容疑者を逮捕

14億横領 17日夜、東京の路上で



千田郁司容疑者

県住宅供給公社元職員が七年半にもわたり、十四億円余に上る公社保管の現金を着服した事件で、県警捜査二課と青森署は十七日午後十一時三十分、同署が業務上横領容疑で全国に指名手配していた元同公社経理担当主

幹、千田郁司容疑者(44)「青森市浪館前田二丁目」を東京都港区六本木の路上で発見、逮捕した。同容疑者の身柄は十八日にも同署に押送される。県史上例がない巨額横領事件発覚から約七週間、発覚後の十月末から消息を絶

ち、海外逃亡の懸念も出ていた千田容疑者の身柄確保を受け、同署と県警は事件の全容解明に入る。

調べによると、県住宅供給公社で経理事務を担当していた千田容疑者は、二〇〇一年十月一日と同三日の二回にわたり、公社が金融機関に開設した同公社理事長名義の口座から、業務上預かり保管中の現金二千三百六十万円余りを引き出し、自己の用途のために着用した疑い。公

社理事長印を自由に使って金融機関に対し、正当な払い戻しを装ったうえ、架空伝票を作成し、発覚を免れていた疑い。

青森署と県警は十月三十一日、公社からの業務上横領罪での告訴を受理し捜査。十一月八日、告訴内容である今年に入ってから二件分、数千円円について容疑が固まったとして業務上横領容疑で逮捕状を取り、全国に指名手配していた。これまでの調べ

では、千田容疑者は十七日午後十一時二十分ごろ、六本木の路上にいるところを、県警が追跡に派遣していた専従捜査員が発見。警視庁麻布署に任意同行を求め、容疑事実を認めため、逮捕した。同容疑者は、一連の横領についても犯行をほぼ認めているという。

千田容疑者が横領したとされる巨額の不明金は、今年十月、仙台国税局が「公社の消費税などの調査、指導目的で訪問」(同公社)。そ

の税務調査の際、公社の事務費振替支出に疑義が生じ千田主幹(当時)に事情説明を求めた状況で判明した。着服は一九九四年度から今年十月までの七年半で、合わせて百二十五回、総額約十四億五千四百万円に上った。公社は十月三十一日に千田容疑者を刑事告訴したが、同容疑者はそれ以前の十月二十九日、宿泊先の都内台場のホテルを後にしてから姿を消していた。